

# ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 <b>エクストリーム・リアリティ</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.490</b>	△RG <b>0.052</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：エクストリーム・リアリティ**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ

番

**比較対照ボール：オルタード・リアリティ**

フレアーの幅  インチ

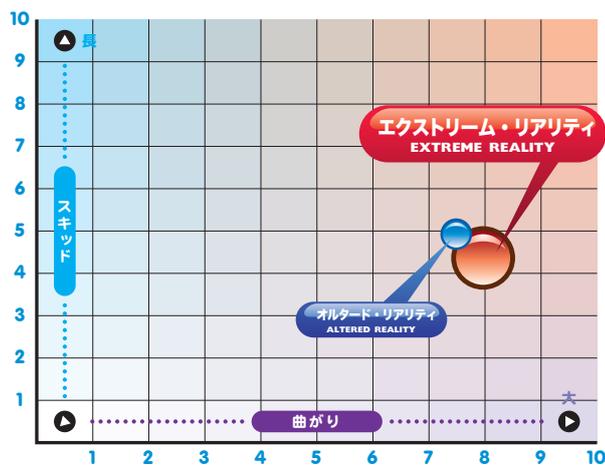
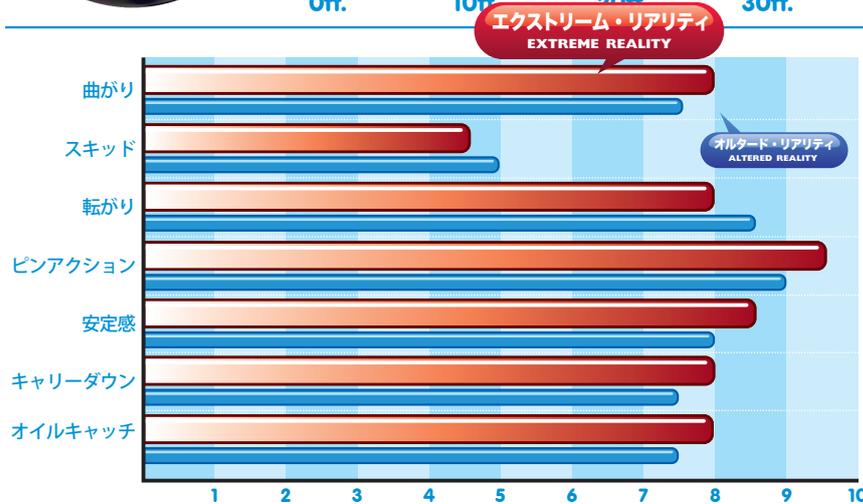
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

## ボールの評価

ボールの進化の課程で様々なパフォーマンスを模索した場合、コアテクノロジーはもちろんですが、カバーストックはそのボールの性能を決める大きな要素になります。900Globalではナンバーシステムでカバーの強さをカテゴリ化していますが、その領域にプラスαをしてさらに変化を加えているカバーストックの名称には”Response”や”Beta”という名称を付けています。Responseはバックエンドの動きをより重視するためにやや走りを強め、バックエンドに特徴をもたせており、Betaはカバーストックの凹凸を保ちながら細孔を縮小することで、オイル上でもドライエリアでも双方摩擦を強化している添加剤です。今回のS84 Response Beta Pearlという名称は、レスポンス系のカバー強化型と読み取ることができます。S84 Beta Hybrid ReactiveのREALITY CHECKとS84 Response Pearl ReactiveのALTERED REALITYと比較投球をしましたが、ALTERED REALITY同様の走りや奥の動きはPearl系のリアクションとして色濃く出ています。ただBeta添加剤が加わっている部分の変化は曲がり自体にしっかりと反映されており、オイルの濃い部分はさほど変化は感じられないものの、少し薄く感じてくるとBetaカバーはブレーキがかかり曲がるようになっている感じができます。REALITY CHECKはBetaでもHybridですので、走り感というよりも持続性のキャッチを感じるのも、こうやって同系のPearlとHybridを比較するとよく読み取れます。ネジレの強いコアなので、持続性の曲がりよりもバックエンド重視で奥の動きに特徴を持たせたいボールが欲しい時に、高いレベルでのキャッチとバックエンド双方を同時に叶えてくれるボールと言えるでしょう。

## 特記事項

**ALTERED REALITYの強化版のイメージで投球できる仕上がりで、全体的なキャッチの強さよりも奥に曲がりのイメージを持たせたい方へおススメのボールです。**